

# 来春卒業予定の大学生“内定”5%超 就職活動本格化前に

2019/02/27 13:40

モバイルニュース  
NHKニュース&スポーツ

来年春に卒業予定の大学生らの就職活動が1日から本格的に始まりますが、今月1日時点ですでに内定を得た学生の割合は5.8%で、前の年より1ポイント余り高くなっていることが分かりました。調査を行った会社は「人手不足が深刻化する中、採用活動の前倒しが進んでいる」と分析しています。

調査は人材サービス大手の「リクルートキャリア」が来年春に卒業する予定の全国の大学生を対象に行い、900人余りから回答を得ました。

大学生らの就職活動は経団連のルールに沿って1日に会社説明会が始まりますが、調査結果によりますと、今月1日時点ですでに内定を得た学生の割合は5.8%でした。これは去年の同じ時期に比べて1.3ポイント高くなっています。

内定率は「文系」が去年の同じ時期より2ポイント上昇して6.5%、「理系」は4.2%でした。

男女別では男性が0.6ポイント上がって5.9%、女性が2ポイント上がって5.5%となっています。

調査を担当したリクルートキャリアの増本全さんは「人手不足が深刻化する中、企業の採用活動の前倒しが進んでいる。ことしも全体的に学生優位の『売手市場』が続き、内定率は高い水準で推移するとみている」と話しています。

【就活ルール廃止で採用方法多様化へ】一方、経団連がことしで就職活動ルールを廃止することについて、リクルートキャリアの増本全さんは「人材の獲得競争が激しさを増す中で、企業が採用の在り方を見直すきっかけになると思う。学生との接触機会を増やすため『通年採用』を導入するなど、企業の間で多様な採用方法が広がっていくのではないかと話しています。